

## 2018年2月購入図書

No.	図書名	内容	著者名	出版社
1	世代の痛み	高度経済成長とともに年を重ね、社会は今よりよくなると信じた果ての未来にため息をつく団塊世代。「超氷河期」のために安定した雇用に恵まれず現状のすべてを自己責任と抱え込む団塊ジュニア。そんな親子関係に今、想定外の未婚、長寿、介護などの家族リスクが襲いかかっている。若者が政治から遠ざかり、女性はいまだに生きづらいのはなぜか。少子化や雇用不安定で「みんなが弱者」の時代は、どこから変えられるか。両世代を代表する論客二人が、今私たちを取り巻く社会経済的な現実と、それへの対策について論じ合った。	上野千鶴子 雨宮処凛	中央公論社
2	家事のしすぎが日本を滅ぼす	”丁寧な暮らし””手作りの食卓””シンプルな部屋”等、「きちんとした家事」への憧れと呪縛が日本人を苦しめる。母親への見えない圧力は、家族との分業を阻んだり、葛藤の原因ともなっている。日本人女性は手料理がまずいと謝るが、フランス人や米国人は平気な顔をしている。食器を毎食後洗う人は、英国の2倍、米国の7倍にのぼる。なぜ日本では男性の家事参加が進まないのか。国や学校により「良い母、良い家庭」であるように仕向けられてきた歴史とは？。	佐光紀子	光文社新書
3	君はどう生きるか	戦後の教科書に採用され、岩波文庫版127万部のロングセラー。漫画版は2017年8月刊行から3ヶ月で100万部に迫る勢い。80年の時を超え、この本はなぜ売れるのか。子どもたちが将来迷った時もこの本を差し出してあげたい。主体として能動的に生きていくことの重要性、一人ひとりが高所から全体状況を見極める能力を求められており、その視点の重要性を説くメッセージが共感を得ている。	原作 吉野源三郎  漫画 羽賀翔一	マガジンハウス
4	サイコパス	おそらく「サイコパス」と聞いて、ポジティブなイメージを持つ人はいないだろう。そして、自分にとっては関係ないことであると思うのではないか？しかし、著書によればなんと100人に1人くらいの割合でサイコパスは存在するという！モラルハラスメントにより精神的に追い詰める加害者には、人の痛みがわからないそしてむしろ人が傷ついている姿を見てそのことに快感を感じる特性を持つ「サイコパス」特性を持つ人もいる。	中野信子	文春新書
5	Black Box ブラックボックス	日本は性暴力に甘い国といわれる。逆にいうと、性暴力の被害者は想像を絶する困難を強いられる。著者の体験を語ることが目的ではなく、法と捜査における社会の現状、尊敬していた人物からの思いもよらない行為、しかし、その事実を証明するにはあらゆるところに「ブラックボックス」がある。司法がこれを裁けないなら、何かを変えなければならぬ。性暴力に対する日本社会の著しい無理解とサポート体制の遅れ(警察も病院も司法もメディアも)を是正したいという思いが書かせた本。	伊藤詩織	文芸春秋

6	編集ども集まれ！	2000年「夏の約束」で芥川賞を受賞した藤野千夜の自伝的長編小説。新米編集者として奮闘する一夫は、ある日スカートをはいて入社する。スカートをはいた彼を友人は笹子と呼びこれまでと変わらず接するが、会社からは男らしい服を着なければクビだと脅される。自分の中にある「女性=スカート」という定義づけに疑問を抱きつつも笹子は自分を貫き通す。	藤野千夜	双葉社
7	森へ行きましょう	主人公は1966年生まれ「留津」と「ルツ」。「留津」は個性の強い姑と世話の焼ける夫に悩まされつつ育児にまい進する。「ルツ」は理系大学に進み研究所での職を得て、男性たちとの恋愛遍歴を重ねつつ、独身生活の孤独と気楽さを享受している。「いつかは通る道」を見失った世代の女性たちのゆくてには無数の岐路があり、選ぶ、判断する、突き進む、後悔する。そしてまた選ぶ。進学、就職、仕事か結婚か、子供を生むか……道は何本にも分かれて、つながっていて、いつの間にか迷って、帰れなくなって……だからこそ「人生という森は深く、愉悅に満ちている」。この二人の世界は、多くの女性のパラレルワールドでもある。	川上弘美	日本経済新聞出版社
8	人口減少デザイン	お金がない？ 出会いがない？ 地方と都市はどう変わる？ 人口減少の事実と対策。人口減少は、結婚、仕事、住まい、経済など私たちのライフスタイルから都市計画まで様々なことに関連する複雑な問題です。人口の減少に対し、身近な地域レベルでなにができるのか。事例を交えながら提案する。行政、政策関係者、地域の活動に取り組む人はもちろん、日本社会の大問題をきちんと理解しておきたい全ての人に。	寛裕介	英治出版
9	また 身の下相談にお答えします	『取りえのない私の就活は?』『常にえらそうに物言う教師の夫』『私の心に関心ない夫』『離婚して恋がしたい』『子持ち同僚の無神経さに嫌気』『女ひとり生きるには何が必要?』『認知症予備軍夫婦への助言を』等々、リアリティーあふれる切実なお悩みに人生の酸いも甘いも噛み分けた上野教授が悩みの本質を見抜き、それに対し簡潔に、明快に、なにより痛快に答える上野節その2です。	上野千鶴子	朝日文庫
10	卒母のススメ	足かけ16年続いた毎日新聞の大人気漫画『毎日かあさん』が2017年6月に完結。連載終了時、作者の西原理恵子が「子育て終わり」「あとは好きにさせてもらう」と“卒母宣言”し、多くの共感の声が挙がった。それを受け、毎日新聞で「卒母」についての感想、体験談を募集。本書にはTwitterなどのSNSで大きな話題となった投稿や、素晴らしすぎて掲載できなかった衝撃作など傑作実話101編を収録。	西原理恵子 卒母ーズ	毎日新聞出版
11	漂流女子 にんしんSOS東京の相談現場から	誰にも言えない妊娠を相談する窓口になんしんSOS東京。そこに寄せられるSOSは、ほとんどが若年妊婦からだ。虐待を受けた者、風俗から抜け出せない者、SNSで出会いを求める者。孤独な若者が抱える現代社会の闇を浮き彫りにする。	中島かおり	朝日新書

12	ハイスペック女子の憂鬱	「高学歴」で「高収入」、おまけに「美人」だったりもする、いわゆるハイスペック女子。外資系やエクセレントカンパニーと呼ばれる一流企業に勤める高嶺の花である。しかし、そんな誰もがうらやむような女性たちにいま、メンタルヘルスに不調をきたすケースが急増しているという。仕事や恋愛、そして子育て……と、何事にも妥協せずに立ち向かう彼女たちには、その意識の高さゆえにさまざまな問題が立ちはだかるからだ。女性産業医が伝授する一億総活躍社会の現実とその対処法!!	矢島新子	洋泉社
13	スマホ時代の親たちへ「わからない」では守れない!	子どもたちのスマホ所有率がぐっと上がり、低年齢化も進んでいる。それによってどんな新しい問題が起きつつあるのか? 保護者は、どのように対処すればよいのか? 保護者や教育関係者、相談を受ける方におすすめの本。ネットには利点もあるが、気が付いた時にはおお事になる時があるので、日頃から注意を払うことが大切。巻末には親のための用語集もついている。	藤川大祐	大空出版
14	モラハラ環境を生きた人たち	モラハラ被害者としての心のうずきに焦点を当てた本。モラハラから離れた後に、傷ついた心を見つめる心のケアがいかに大切か! それを怠るとどのような影響があるのかを知っていただくために、そして、こころのケアを実施していただくために。	谷本恵美	而立書房
15	95歳まで生きるのは幸せですか?	老後はどう生きる? 人生の始末をどうする?池上さんが寂聴さんに聞いた、「老い方のレッスン」。「老後」と呼ばれるほど長生きできたとしたら、生きているだけで儲けもの。老人らしく生きる必要はない。自分らしく生きよう——。「波乱万丈“豊饒な人生経験”を経たからこそその言葉の重み。寂聴さんの一言一言に私たちが頷くのは、そんなところがあるのではないのでしょうか」(「おわりに」より)。超高齢社会を迎える日本で、長生きすることは本当に幸せなのか?誰もが避けることのできない「老い」や「死」について考える。	瀬戸内寂聴 池上彰	PHP新書
16	さよなら、田中さん	14歳スーパー中学生作家,鈴木りかの待望デビュー作品。 田中花実(はなみ)は小学6年生。ビンボーな母子家庭だけれど、底抜けに明るいお母さんと、毎日大笑い、大食らいで過ごしている。そんな花実とお母さんを中心とした日常の大事件やささいな出来事を、時に可笑しく、時にはホロッと泣かせる筆致で描ききる。今までにないみずみずしい目線と鮮やかな感性で綴られた文章には新鮮な驚きがある。 友人とお父さんのほろ苦い交流を描く「いつかどこかで」、お母さんの再婚劇に奔走する花実の姿が切ない「花も実もある」など全5編が収録。	鈴木りか	小学館